

# 令和五年 伝道掲示板

1月  
前半

今日という日は、残りの人生の最初の日である  
Charles Dederich

1月  
後半

窮すれば則ち変じ 変ずれば則ち通ず『易経』

2月

冬ごもり こらえこらえて 一時に  
花咲きみてる 春は来るらし 野村望東尼

3月

一花開天下春

4月

寧ろ獨り行くを善しとす 愚者と侶なる勿れ  
獨り行きて悪を爲さざれ 少欲にして林中の象の如く  
『法句経』

5月

捨てし身を いかにと問はば 久方の  
雨降らば降れ 風吹かば吹け 良寛

6月

冬があり 夏があり 昼と夜があり  
晴れた日と雨の日があって  
ひとつの花が咲くようにう  
悲しみも苦しきもあって  
私が私になってゆく 悲しみの意味 星野富弘

7月

いつか ふたりになるためのひとり  
やがて ひとりになるためのふたり 浅井和代

8月

まこちゃんが死んだ日 石垣りん  
まこちゃんが 死んだ日わたしは ごほんたべた  
まこちゃんが 死んだ日わたしは うちをでた  
まこちゃんが 死んだ日それは 晴れていた  
まこちゃんが 死んだ日みんなで あつまった  
まこちゃんが 死んだ日夜は いつもの通り  
まこちゃんが 死んだ日では さようなら

9月

晴れた日は晴れを愛し、雨の日は雨を愛す。  
楽しみあるところに楽しみ、楽しみなきところ  
に楽しむ。 吉川英治

10月

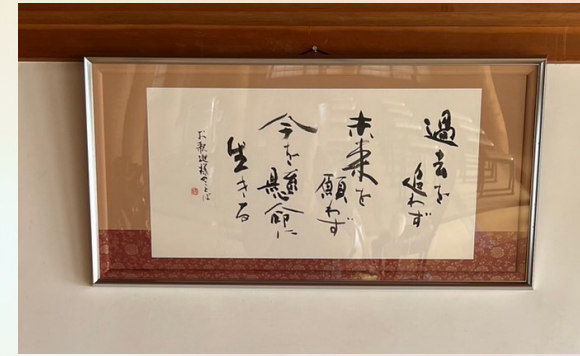
かたちこそ 深山がくれの 朽木なれ  
心は花に なさばなりなむ 兼芸法師

11月

人生を愛せよ 死を思え  
時が来たら 誇りをもって 脇へどけ  
エーリヒ・ケストナー

12月

ととしにわが悲しみは深くして  
いよよ華やぐいのちなりけり 岡本かの子



峯溪書会の齊藤翠香先生よりご寄進をいただきました。  
私たちの生きている場所は、常に「今・ここ」です。  
嬉しい時、楽しい時はもちろん、  
思い通りにならない時もまた「今・ここ」なのです。  
その「今・ここ」を生きる姿勢が問われています。

6月30日、元TOKIOの山口達也氏をお迎えし、  
大きな喪失から見た景色について講演をいただきました。  
11月5日、歯科医師の井上義郎先生、精神科医師の茂木千明先生、  
落語家の笑福亭銀瓶さんをお迎えし、  
フレイルについて考える時間を持ちました。



## ご案内

### 塔婆納め処



佐藤石材店様よりご寄進いただきました。  
古い塔婆はこちらにお納めください。  
尚、お盆と秋彼岸の供花の片づけの際に  
塔婆の焼却供養をしております。

### 塔婆志納料について

徳成寺では、塔婆1本につき  
1000円以上のご志納をお願いしておりました。

昨今の塔婆及び輸送費の急激な高騰に対して  
横幅を短くしたり  
長さを5尺から4尺に変更したりしてまいりましたが  
対応できない状況になりました。

令和6年1月より塔婆1本につき2000円以上のご志納  
をお願いいたします。

昨年2月に体調を崩し、別れを覚悟いたしました。  
しかし、奇跡的に一命をとりとめました。  
以来、元気に過ごしております。  
雀、ネズミ、蛇などを捕まえてきては自慢します。  
訪れた人に、ひっくり返ってお腹をさらけだし、  
撫でるように求めます。  
痛みを抱えて来られた方々に、一時の癒しを  
トクなりに与えてくれています。



徳成寺 Instagram

徳成寺



# 令和六年

## 年回忌表

一周忌	令和五年
三回忌	令和四年
七回忌	平成三十年
十三回忌	平成二十四年
十七回忌	平成二十年
二十一回忌	平成十六年
二十七回忌	平成十年
三十三回忌	平成四年
三十七回忌	昭和六十三年
四十三回忌	昭和五十七年
五十一回忌	昭和四十九年
七十回忌	昭和三十年
百回忌	大正十四年

徳成寺では二十二回忌・五十回忌の年回忌はありません

寄進者 金一封 成田 宗形 トヨ子 殿

お彼岸の中日やお盆にはお寺にお参りください。  
お墓参りのあと、ご本尊様に手をあわせましょう。

ご本尊とは、本当に尊いことを気づかせてくれる仏様のことです。  
尚、墓地のゴミはお持ち帰りいただくようお願いいたします。  
また、生花や竹筒は回収していただければ、幸甚に存じます。



### 清月墓の案内

お墓の継承者がいなくても 徳成寺が永代にわたって供養する安心のお墓です。  
墓じまいをお考えの方、お墓の継承者がいない方はお気軽にご相談ください。  
生前契約も対応いたします。

### お願い

お寺にご用の際には、お越しになる前に必ずお電話をください。  
住職一人がお寺で起居しております。  
葬儀や所用で留守にすることも多くありますので、予め電話でご要件をお伝えください。  
尚、お盆やお彼岸に、近隣のご寺院のお手伝いに伺うこともあります。  
8月14日、彼岸の中日、正月3ケ日以外の所在については、お手数ですがご確認ください。

# 新年 おめでと〜うございます

正月は 冥土の旅の 一里塚  
めでたくもありめでたくもなし 一休



徳成寺

この句は、正月や、とか、門松は、と詠まれて  
流布されているものもあります。

いづれにしても私たちは、正月に年を一つ必ず頂戴いたします。  
そして、それは一歩死に近づくことでもあります。  
一休さんは仰るのです。

命があることは本当にありがたいことだよ。  
でも、文字通り、有り難い、、、  
つまり、あなたの命はいつまでもあるものではないし、しかも、自分の  
命であっても最期の姿は誰にもわからないのだよ、と。

年の初めに、「めでたくもありめでたくもなし」と  
喝破する一休さんの目には、命はどのように映っているのでしょうか。  
死を目の当たりにしても、一休さんは慌てふためいている姿はありません。  
「もう少し長生きさせてください」、「そろそろお暇を」と自分の  
希望を訴えようとはしていません。  
一時の感情に振り回されることなく、自らの「今・ここ」の課題と対峙  
することこそが命の使い方だと教示されています。

命は無常です。移り変わっていきます。それ故に、尊いのです。  
本年が穏やかな年でありませうように。

年賀状を頂き有難うございます。

誠に失礼ではありますが、この「勝友」を以てお檀家の皆様への年賀状とさせていただきます。

# 勝友